

上田穆氏の「街の放射線」に題す

石原 純



これは

昭和の新浮世繪である。

女性たちが

いかに尖鋭な感覚を

その周囲にふりまき、

おにを思慕し、

どんな言葉と姿体とをもち

みづからを飾りてゐるか、

人々は

それを「街の放射線」に見るがごとく。

かくて

新人上田穆のリズムは

おそろしく華やかである。

しかしまた

こくてえるの苦さと、

さでいすむの暗さとか

その影に潜んでゐるのを
見落としてはおらふい。
これは、まことに
昭和の新々浮世繪である。